

生産管理システムに併せ、東京/大阪の物流拠点を本格稼働開始

株式会社大宣システムサービス（以降、dss 所在地：大阪府大阪市中央区、代表取締役社長：大嶋芳明）は、東京/大阪の物流拠点を戦略的ロジスティック拠点と位置づけ、印刷に必要な『少量多品種』でのストックフォーム在庫管理（備考1参照）を本格開始しました。

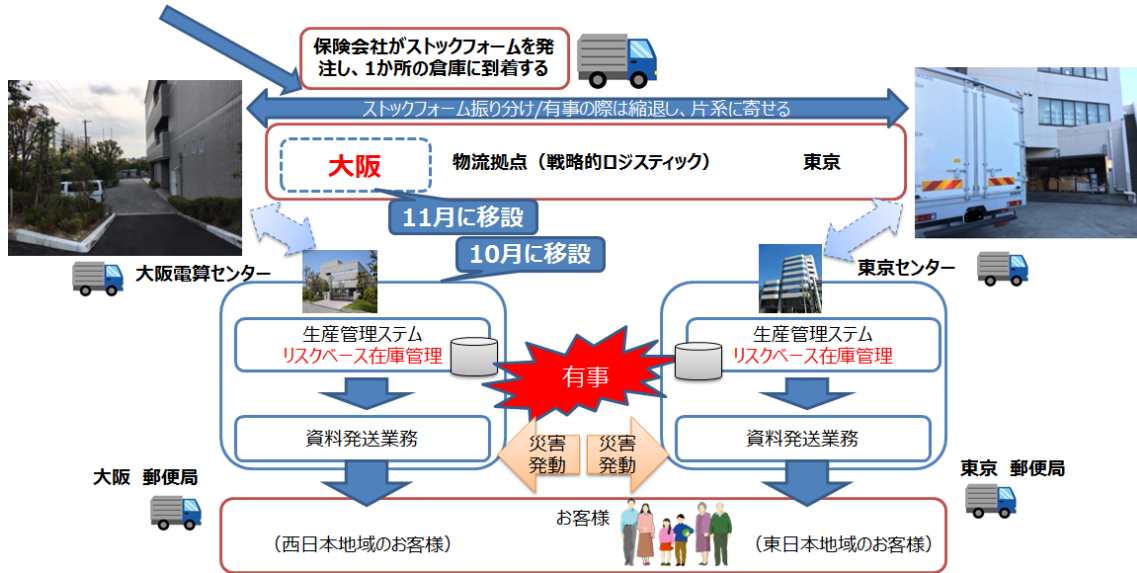
これまでdssでは、震災を機にリスクベースのストックフォーム在庫管理を自社でシステム化し、二拠点で『少量多品種』の印刷ストックフォームの在庫量/減少量を統計解析していました（図1参照）。dssが開発した生産管理システムではストックフォームの（将来に渡る）減少量をシミュレーション（毎日減少量を更新）し、あるリスク値に到達すると、適格なストックフォームの量を発注する在庫管理を既に実装しておりました

しかしながら、昨年10月からマシンを大阪電算センターに移設し、11月にdssの強みであるIT化された物流拠点を大阪に移設完了したものの、トラック（ドライバー）や内部監査の確認ができておりませんでした。具体的には、生産管理システムと物流ルート、入退室管理、トラック（ドライバー）の稼働バランスを調整し、大阪拠点の効率的な物流です。これらの課題を解決するために、2017年1月に、生産管理システムも2拠点（東京/大阪）でアクティブ-アクティブ（A-A）運用でコントロールし、人の運用を含めた東京と大阪の物流拠点の運用を本格開始しました。2017年度は、大阪物流センター/大阪電算センターもJQA6規格統合運用の監査に対応する予定です。

備考1

在庫管理：在庫の増減を統計解析することにより、在庫の減少（リスク値の増加）を人の判断ではなく、システム側で自動判定する。物流拠点に何等かの有事が発生した場合、片拠点に縮退する運用を想定している。今後、リスク値をパターン化（ビックデータ化）することによりAI化する予定

図1、ロジスティック拠点（発注～振り分け～事務封入～資料発送～郵送フロー）



出典：dss（2017年1月）